

2020 年度ゼミ (4001 演習 3A/4002 演習 3B) 要覧

担当者名	平山恵
演習テーマ	社会科学論文を作成する
内容 と 卒業論文の 指導方針	4年間の学習の集大成としての卒業論文を 大学生生活の宝となるよう 仕上げる。このゼミの演習では、社会開発や平和関係の卒論作成を行う。文献調査に基づく卒論でも構わないが、できれば、小さくてもオリジナルな社会調査または ミニ 実験結果データを使って作成する。
メール・アドレス	megumix@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	木曜昼休み (要予約)
授業概要	卒業論文作成 とその協働的な検討が中心となる。 毎週の卒論指導までに準備したものをゼミ仲間や、指導教員、プルーフリーダーに読んでもらい、コメントを受け訂正・加筆していく。
学習目標	1. 自分の納得できる形で卒論を 仕上げるべく、毎週何らかの進歩が提示できる。 2. 講義や数ページのレポートとは違い、毎日コツコツと進められる研究姿勢を身につける。 3. 科学的な思考方法、情報収集の整理方法、そして論述の方法を習得する。
授業計画	以下のような流れで卒論を作成する。 4~5月 先行研究を行い、卒論の Research Question を狭める 6~7月: 踏査テストまたは論文メモを作成しながら骨子を固める。 夏休み中: 社会調査 や文献調査を行い、試行論文を作成する。 9月下旬 夏休みに作成した試行論文を卒業生も含めた合同ゼミで 発表し、不足しているデータを収集したり、書き直しを行う。 10~11月 卒論の第一原稿を完成させ、プルーフリーダーに提出する。 12月 プルーフリーダー 3名に読んでもらったものを手直し、完成する。
予習	毎回、前回のコメントに沿った作成、手直しをして演習にのぞむ。
復習	同上
授業に関する注意事項	原稿は4人のプルーフリーダーの承認を得る。指導教員の他に3人の承認が必要である。プルーフリーダーは担当教官と相談して決定する。
教科書	戸田山和久『新版論文の教室—レポートから卒論まで』日本放送出版協会、2012年
参考書	『アカデミックリテラシーハンドブック』(教養教育センター)
成績評価の基準	毎週の進捗部分の報告、議事録、35%、他のゼミ生の発表へのコメントや提案などの発言や自発的な学習活動 35%、レポート 30%。原則として、前回出席すること。無断欠席した場合は単位を認めない。

関連 URL	特になし。
備考	<p>ゼミ転入を希望する場合は、まず、国際学部事務室から「転原バンドゼミ方針」を取り寄せる。それを読んでもこのゼミに転入したいと考えた者は、以下の 2 点について、それぞれ A4 で 1 枚程度を書いて国際学部事務室内の担当教員のメールボックスに提出する。</p> <p>①演習 1 と 2 やこれまでの大学の学びで得たもの</p> <p>②卒論で書きたいこと（もし既に現在のゼミで書いた小論文等があればそれも添付すること）</p> <p>締め切り：2019 年 12 月 20 日（金） これより早くても、もちろん良い。（担当教員が 12 月 23 日から 1 月 5 日まで校外実習で不在なため、面談が帰国後になる可能性があるので、なるべく早く提出した方が方が一受け入れられない時に別のゼミを考えることができる。）</p>